



Solaris 7 のインストール (追補)

Sun Microsystems, Inc.
901 San Antonio Road
Palo Alto, CA 94303-4900
U.S.A.

Part No: 806-2177-10
1999 年 12 月

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

RESTRICTED RIGHTS: Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions of FAR 52.227-14(g)(2)(6/87) and FAR 52.227-19(6/87), or DFAR 252.227-7015(b)(6/95) and DFAR 227.7202-3(a).

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, docs.sun.com, AnswerBook, AnswerBook2, Java, JDK, Power Management, Solaris 7 Maintenance Update, Solstice, AdminSuite, NFS, AutoClient は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

Netscape は、米国 Netscape Communications Corporation の商標もしくは登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: *Solaris 7 Installation Supplement*

Part No: 806-1649-10

Revision A

© 1999 by Sun Microsystems, Inc.



目次

- はじめに v
- 1. 新規機能の概要 1
- 2. **Solaris 7 - 11/99** オペレーティング環境のインストール 7
 - インストールマニュアルのオンライン表示 8
 - システム識別時の DNS 構成 8
 - sysidcfg ファイルによる事前設定 8
 - Solaris 7 - 11/99 オペレーティング環境のインストール 10
 - ▼ Solaris 7 をインストールサーバーとして使用するには 10
 - Solaris 7 - 11/99 ソフトウェアのバージョンの確認 11
- 3. **Solaris 7 - 11/99** オペレーティング環境へのアップグレード 13
 - Solaris 2.5.1 または 2.6 オペレーティング環境からのアップグレード 14
 - Solaris 7、Solaris 7 - 3/99、5/99、または 8/99 オペレーティング環境からのアップグレード (パッチを適用していない場合) 15
 - Solaris 7、Solaris 7 - 3/99、5/99、または 8/99 オペレーティング環境からのアップグレード (パッチを適用している場合) 16
 - パッチの解析 16
- 4. パッチの追加 21
 - インストールやアップグレードに必要な AdminSuite パッチ 21
 - サーバーアップグレード後のクライアントのアップグレード 22

5. ソフトウェアの管理とアンインストール 23

Solaris Product Registry の使用 23

Solaris Product Registry とは 24

登録されているソフトウェアの表示、アンインストール、およびインストーラの起動 27

▼ 登録されているソフトウェアを表示するには 27

▼ ソフトウェアをアンインストールするには 27

▼ Solaris Product Registry からインストーラを起動するには 28

はじめに

『Solaris™ 7 のインストール (追補)』では、Solaris 7 - 11/99 ソフトウェアリリースをインストールする手順と、Solaris 7 - 11/99 オペレーティング環境にアップグレードする手順を説明します。また、Solaris 7 - 11/99、8/99、5/99、および 3/99 オペレーティング環境の新しいインストール機能の使い方も説明します。

関連マニュアル

このマニュアルでは、Solaris の新しいリリースにおいて追加および変更された機能について説明します。ここでの説明は、すでにリリースされている Solaris 7 のマニュアルセットの内容を補足または変更するものです。

Solaris ソフトウェアをインストールする際は、次のマニュアルを参照してください。

- 『Solaris 7 インストールの手引き』(印刷版)
- 『Solaris 7 インストールライブラリ (SPARC™ 版)』(印刷版および Solaris 7 Documentation CD)
- 『Solaris 7 インストールライブラリ (Intel 版)』(印刷版および Solaris 7 Documentation CD)
- 『Solaris のインストール (上級編)』(Solaris 7 Documentation CD)
- 『Solaris 7 - 11/99 ご使用にあたって (SPARC 版または Intel 版)』(印刷版)
- 『オンラインリリース情報 (SUNWjrdm)』(Solaris 7 - 11/99 CD)

Solaris のマニュアルは、Solaris 7-11/99 リリースの Solaris 7 Documentation CD に含まれています。

ハードウェア構成によっては、Solaris オペレーティング環境をインストールするためにハードウェア固有の手順が必要となることがあります。ハードウェア固有のインストール手順については、ご使用のハードウェアのドキュメントを参照してください。

Sun のマニュアルの注文方法

Sun Software Shop プログラムを利用して、米国 Sun Microsystems™, Inc. (以降、Sun™ とします) のマニュアルまたは AnswerBook2™ CD をご注文いただけます。

マニュアルのリストと注文方法については、<http://www.sun.com/software/shop> を参照してください。

Sun のオンラインマニュアル

<http://docs.sun.com> では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% su password:
AaBbCc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
[]	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep '^#define \ XV_VERSION_STRING'

ただし AnswerBook2™ では、ユーザーが入力する文字と画面上のコンピュータ出力は区別して表示されません。

コード例は次のように表示されます。

■ C シェルプロンプト

```
system% command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのプロンプト

```
system$ command y|n [filename]
```

■ スーパーユーザーのプロンプト

```
system# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

一般規則

- このマニュアルでは、英語環境での画面イメージを使っています。このため、実際に日本語環境で表示される画面イメージとこのマニュアルで使っている画面イメージが異なる場合があります。本文中で画面イメージを説明する場合には、日本語のメニュー、ボタン名などの項目名と英語の項目名が、適宜併記されています。
- 「x86」という用語は、一般に Intel 8086 ファミリーに属するマイクロプロセッサを意味します。これには、Pentium、Pentium Pro、Pentium II、Pentium II Xeon、Pentium III、Celeron の各プロセッサ、および AMD、Cyrix が提供する互換マイクロプロセッサチップが含まれます。このマニュアルでは、このプラットフォームのアーキテクチャ全体を指すときに「x86」という用語を使用し、製品名では「Intel 版」という表記で統一しています。

新規機能の概要

この章では、Solaris 7-11/99、8/99、5/99、および 3/99 リリースのオペレーティング環境に追加された新しい機能について説明します。

表 1-1 Solaris 7 の新規機能

機能	サポート開始 リリース番号	説明
インストール		
AnswerBook2 ab2cd スクリプトの更新	8/99	ab2cd スクリプトの更新により、ユーザーは AnswerBook2 文書を Solaris 7 Documentation CD から直接読み込むことができます。
システム識別時の DNS 構成	5/99	以前の Solaris リリースでは、マシンは NIS または NIS+ クライアントとしてのみ構成できました。Solaris 7-5/99 リリースでは、システム識別ユーティリティを使用して、システムを DNS クライアントとして構成できます。
Solaris Product Registry	3/99	Solaris Product Registry はインストールされたソフトウェアを管理するためのツールです。次のような作業を行うことができます。 <ul style="list-style-type: none">■ インストールおよび登録されているソフトウェアとソフトウェア属性の一覧の表示■ ソフトウェアのアンインストール■ インストーラの選択と起動

表 1-1 Solaris 7 の新規機能 続く

機能	サポート開始 リリース番号	説明
パッチアナライザ	3/99	パッチアナライザはシステムを解析し、Solaris 7 オペレーティング環境を Solaris 7-11/99 オペレーティング環境にアップグレードするときに削除またはダウングレードされるパッチを調べます。この解析はアップグレード時または Solaris 7 のシステム稼動中に実行できます。
(Intel 版のみ) PAE モードのサポートの追加	3/99	Pentium Pro のリリースで、Intel は拡張プロセッサに PAE (Physical Address Extension) というモードを採用しました。PAE モードを使用すると、複数のデータベースを実行したり、メモリーを大量に消費するアプリケーションを実行することができます。また、マシンで多数のオンラインユーザーをサポートできます。 この機能については、『Solaris 7 - 11/99 ご使用にあたって (Intel 版)』を参照してください。
システムとネットワークの管理 (これらの機能については、『Solaris 7 のシステム管理 (追補)』を参照してください)		
Universal Disk Format (UDF) ファイルシステム	11/99	UDF ファイルシステムは、DVD (digital versatile disc または digital video disc の略) と呼ばれる光学媒体に情報を格納するための、業界標準フォーマットです。
DVD	11/99	このリリースでは、DVD (digital versatile disc または digital video disc の略) をサポートしています。
(Intel 版のみ) cfgadm コマンドによる PCI ホットプラグ機能	11/99	cfgadm コマンドは、x86 システム上でサポートされる PCI コントローラ用の PCI ホットプラグ機能を提供するように更新されました。
デバイス構成の改良 (devfsadm)	11/99	devfsadm コマンドは /dev および /devices ディレクトリ内の特殊デバイスファイルを管理するのに使用され、再構成が行われた場合にデバイスの構成変更を検知するように更新されました。
(SPARC 版のみ) Inter-Domain Network (IDN)	11/99	Inter-Domain Network (IDN) は、Dynamic System Domain (DSD) 間的高速ネットワーク接続機能を提供します。これにより DSD は、ケーブルングや特別なハードウェアを使用せずに、TCP/IP などの標準ネットワークインタフェースにより互いに通信できます。 IDN の詳細や、IDN がご使用のサーバーをサポートしているかについては、ハードウェアのマニュアルを参照してください。

表 1-1 Solaris 7 の新規機能 続く

機能	サポート開始 リリース番号	説明
coreadm	8/99	coreadm コマンドのサポートにより、Solaris システム管理者のコアファイル管理が改善されました。
cfgadm による SCSI ホットプラグ機能の拡張	8/99	cfgadm コマンドに、サポート可能な SCSI ハードウェアに対する SCSI ホットプラグ機能が追加されました。
BIND 8.1 への移行	8/99	この節は、『Solaris ネーミングの設定と構成』と『Solaris ネーミングの管理』における Bind 8.1 への移行の説明に対する更新情報です。
AnswerBook2 サーバー ソフトウェアの更新	8/99	AnswerBook2 バージョン 1.4.1 サーバーソフトウェアの更新により、ナビゲーションと性能が改善されました。
リモートコンソール	5/99	consadm コマンドを含む新しいシステムコンソール機能です。システム管理者およびサービスプロバイダはシステムで発生する問題をシリアルポートに接続されたモデムでシステムにダイヤルインし、コンソールメッセージを補助デバイスに出力することによってリモートから解決できます。
(SPARC 版のみ) 動的再 構成	5/99	動的再構成により、サービスプロバイダはシステムの動作中に、ホットプラグ可能なシステムボードを追加、取り外し、および取り替えることができ、リポートにかかる時間を節約できます。詳細は、ハードウェアのマニュアルを参照してください。
UFS ファイルシステムでの デフォルトのアクセス 時刻の更新	3/99	新しいマウントオプション dfratime と nodfratime を使用すると、UFS ファイルシステムでのアクセス時刻更新の遅延を有効または無効にできます。
改良されたシステムブート とエラーメッセージ形式	3/99	syslog ログ機能が生産するメッセージに、数値による識別子、モジュール名、およびタイムスタンプを追加することにより、システムブートとエラーメッセージ形式が改良されました。
(SPARC 版のみ) 一時停止 しているシステムでの cron ジョブの処理の改良	3/99	Power Management™ ソフトウェアを使用してシステムを一時停止および再開するとき、システムが一時停止している間に cron ジョブがスケジュールされているかどうかを検査します。このようなジョブがある場合、システムが再開されると、最初の cron ジョブのインスタンスが実行されます。この改良は Solaris 7 リリースから利用可能になり、Solaris 7 - 3/99 リリースでマニュアルに掲載されました。

開発者向け機能 (これらの機能については、『Solaris 7 のソフトウェア開発 (追補)』を参照してください)

表 1-1 Solaris 7 の新規機能 続く

機能	サポート開始 リリース番号	説明
(SPARC 版のみ) SCSI HBA ドライバ用の動的再構成のサポート	11/99	このリリースでは、動的再構成 (DR) サポートが SCSI デバイス用に更新されました。 ご使用のサーバーが DR をサポートするかどうかについては、ハードウェアのマニュアルを参照してください。
PCI ホットプラグ機能	11/99	PCI ホットプラグ機能が更新され、x86 サーバー用デバイスドライバの作成に関する情報が含まれるようになりました。
8 ビットビジュアルサポート	8/99	8 ビットビジュアル共有ライブラリにより、24 ビットハードウェアしか持たないデバイスドライバから 8 ビットビジュアルアプリケーションを表示できます。
『Solaris 7 64 ビット開発ガイド』の更新	3/99	『Solaris 7 64 ビット 開発ガイド』の更新内容の一覧です。
クラスタ対応デバイスドライバ用の DDI インタフェースの更新	3/99	この概要は、デバイスドライバ開発者向けに、デバイスクラス概念、および必要なインタフェースの変更と追加を紹介します。
Java™ Development Kit (これらの機能については、『Solaris 7 のソフトウェア開発 (追補)』を参照してください)		
JDK™ 1.1.7_08	11/99	JDK 1.1.7_08 には、次の拡張機能が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ ユーロ通貨サポートの拡張 ■ 高性能 Just In Time (JIT) コンパイラ <p>JDK の最新バージョンに対応する Java Runtime Environment (JRE) が Web からダウンロードできます。</p> <p>http://www.sun.com/solaris/java</p>

表 1-1 Solaris 7 の新規機能 続く

機能	サポート開始 リリース番号	説明
Java 2 SDK 1.2.1_03	11/99	<p>Java 2 SDK 1.2.1_03 は、Java 2 に基づいた Java テクノロジーの最初の Solaris でのリリースです。これには、次の拡張が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ スケーラビリティと性能の著しい向上 ■ メモリー管理システムの拡張 ■ 高性能でスケーラビリティのある Java Virtual Machine (JVM) ■ 高速な Java スレッドの同期化 ■ プログラムにおけるメモリーリークを発見するヒープ検査ツールによる、診断機能の拡張 ■ Just In Time (JIT) コンパイラの最適化
<p>デスクトップユーザー (これらの機能については、『Solaris 7 ユーザーズガイド (追補)』を参照してください)</p>		
Personal Digital Assistant (PDA) Sync	11/99	<p>PDA Sync により、カレンダーマネージャなどの Sun のアプリケーションのデータを、PDA 上の類似したアプリケーションのデータと同期させることができます。また、アプリケーションやデータベースをワークステーションまたはサーバーから PDA にインストールすることができます。</p>
Netscape™ アプリケーションの起動用ウィンドウ	11/99	<p>デスクトップアプリケーションフォルダウィンドウには、次の新しいアイコンが追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Netscape ■ Netscape Composer ■ Netscape Mail ■ Netscape News
Xserver 11R6.4	11/99	<p>Xserver 11R6.4 は次の新機能を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ XPrint ■ Xkeyboard ■ Display Power Management Signalling ■ Xinerama ■ Color Utilization Policy ■ WebEnabledX <p>これらの機能用に新しいマニュアルページが提供されます。</p>

Solaris 7 - 11/99 オペレーティング環境のインストール

この章では、次の項目について説明します。

- 8ページの「インストールマニュアルのオンライン表示」
- 8ページの「システム識別時の DNS 構成」
- 10ページの「Solaris 7 - 11/99 オペレーティング環境のインストール」
- 11ページの「Solaris 7 - 11/99 ソフトウェアのバージョンの確認」

Solaris 7 - 11/99 の詳しいインストール手順については、『Solaris 7 インストールライブラリ (Intel 版)』または『Solaris 7 インストールライブラリ (SPARC 版)』、および『Solaris のインストール (上級編)』を参照してください。

注 - このリリースで利用できる新しいプラットフォームとオプションのリストについては、ハードウェアのマニュアルを参照してください。

注 - 最新のマニュアルページを参照するには、man コマンドを使用してください。Solaris 7 - 11/99 のマニュアルページには、「Solaris 7 Reference Manual Collection」には記載されていない新しい情報が提供されています。

インストールマニュアルのオンライン表示

この機能は、Solaris 7-8/99 のソフトウェアリリースで更新されました。

Solaris 7 Documentation CD の ab2cd スクリプトでは、ユーザーが AnswerBook2 文書をこの CD から直接読み取ることができます。ab2cd スクリプトの詳細は、Solaris 7 Documentation CD の README_ja.html ファイルを参照してください。

システム識別時の DNS 構成

Solaris 7-5/99 ソフトウェアリリースでは、システム識別ユーティリティが更新されました。この節では、『Solaris のインストール (上級編)』での説明を補足します。

Solaris 7-5/99 より前のソフトウェアリリースでは、システム識別ユーティリティはシステムを NIS クライアントまたは NIS+ クライアントとしてのみ構成できました。Solaris 7-5/99 以降のシステム識別ユーティリティでは、システムを DNS クライアントとしても構成できます。システムを DNS クライアントとして構成するには、対話的に指定するか、sysidcfg ファイルを使用して指定します。今回のリリースでは、add_install_client コマンドによる DNS クライアントの指定はできません。

システム識別ユーティリティは、自動的にさまざまな情報源から構成情報を調べようとします。まず、sysidcfg ファイルを調べます。sysidcfg ファイルから必要な情報を見つけることができなかつた場合、自動的にネットワークを使用してデータを検出しようとします。たとえば、ネームサービスを構成する場合、sysidcfg ファイルにネームサービスの種類と構成が指定されていなければ、システム識別ユーティリティは自動的にネームサービスを探します。まず、自動的に NIS+ サーバーを検出しようとします。NIS+ サーバーが見つからない場合は、NIS サーバーを探します。NIS サーバーも見つからない場合は、対話式で構成情報をたずねます。今回のリリースでは、DNS サーバーは自動的に検出できません。

sysidcfg ファイルによる事前設定

sysidcfg ファイルはシステム構成情報を事前設定します。事前設定したい情報を示す一連のキーワード (表 2-1 を参照) を sysidcfg ファイルに指定しておきま

す。sysidcfg ファイルの使い方の詳細 (利用可能なキーワードの全リストを含む) は、『Solaris のインストール (上級編)』を参照してください。

DNS をネームサービスとして指定するために name_service キーワードに DNS オプションが追加されました。このキーワードについては、表 2-1 を参照してください。

表 2-1 name_service キーワード

構成情報	プラットフォーム	キーワード	値または例の書かれている場所
ネームサービス、ドメイン名、ネームサーバー	SPARC/x86	name_service=NIS, NIS+, DNS, NONE	
		NIS と NIS+ 用のオプション: {domain_name=domain_name name_server=hostname(ip_address)}	name_service=NIS {domain_name=west.arp.com name_server=timber(129.221.2.1)}
			name_service=NIS+ {domain_name=west.arp.com. name_server=timber(129.221.2.1)}
		DNS 用のオプション: {domain_name=domain_name name_server=ip_address,ip_address, ip_address (最大 3 つ) search=domain_name, domain_name,domain_name, domain_name,domain_name, domain_name (最大 6 つ。合計の長さが 250 文字以下)}	name_service=DNS {domain_name=west.arp.com name_server=10.0.1.10,10.0.1.20 search=arp.com,east.arp.com}
			注 - name_service に指定する値は 1 つだけです。domain_name と name_server キーワードは (必要に応じて) 両方または片方を指定するか、どちらも指定しなくてもかまいません。どちらのキーワードも使用しない場合は、中括弧 {} を省略します。

Solaris 7 - 11/99 オペレーティング環境のインストール

Solaris 7 - 11/99 オペレーティング環境をインストールする場合は、『Solaris 7 インストールライブラリ (Intel 版)』または『Solaris 7 インストールライブラリ (SPARC 版)』の「インストールの手順」を参照してください。

注 - Solstice AdminSuite™ 2.3 ソフトウェアを使用して、サーバーに OS サービスを追加する場合は、Solstice AdminSuite 2.3 のパッチ ID 104468-11 (SPARC) / 104469-11 (Intel) あるいはこのリビジョン以降のパッチをインストールする必要があります。詳細は、21ページの「インストールやアップグレードに必要な AdminSuite パッチ」を参照してください。

▼ Solaris 7 をインストールサーバーとして使用するには

Solaris 7 をインストールサーバーとして使用する場合、`add_install_client` を実行する前に、Solaris 7 の `/etc/nsswitch.conf` ファイルを変更する必要があります。次の各手順は、『Solaris のインストール (上級編)』の「ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをインストールする準備」のインストール手順に対する補足説明です。

1. システムをバックアップします。

『Solaris のインストール (上級編)』の「ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをインストールする準備」にあるシステムのバックアップ手順に従ってください。

2. Solaris 7 の `/etc/nsswitch.conf` ファイルの次の行に移動します。

```
hosts: xfn nis [NOTFOUND=return] files
```

3. `xfn` エントリを削除して、次の行のようにします。

```
hosts: nis [NOTFOUND=return] files
```

4. **Solaris 7 - 11/99** オペレーティング環境をインストールします。

Solaris 7 をインストールサーバーとして Solaris 7 - 11/99 オペレーティング環境をインストールする方法については、『*Solaris* のインストール (上級編)』の「ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをインストールする準備」を参照してください。

Solaris 7 - 11/99 ソフトウェアのバージョンの確認

Solaris 7 - 11/99 ソフトウェアのバージョンを確認するには、次のように入力します。

```
# cat /etc/release
```


Solaris 7 - 11/99 オペレーティング環境へのアップグレード

この章では、Solaris 7 - 11/99 オペレーティング環境へのアップグレード方法に関する追加情報を説明します。アップグレード手順の詳細は、『Solaris 7 インストールライブラリ (SPARC 版)』または『Solaris 7 インストールライブラリ (Intel 版)』を参照してください。

アップグレード手順は、現在の Solaris オペレーティング環境によって異なります。次の中から現在の Solaris オペレーティング環境に合うアップグレード手順を選択してください。

- 14ページの「Solaris 2.5.1 または 2.6 オペレーティング環境からのアップグレード」
- 15ページの「Solaris 7、Solaris 7 - 3/99、5/99、または 8/99 オペレーティング環境からのアップグレード (パッチを適用していない場合)」

システムに個別のパッチをインストールしていない場合は、このアップグレード手順を選択してください。
- 16ページの「Solaris 7、Solaris 7 - 3/99、5/99、または 8/99 オペレーティング環境からのアップグレード (パッチを適用している場合)」

システムに個別のパッチをインストールしている場合は、このアップグレード手順を選択してください。

注 - Solaris 7 - 11/99 ソフトウェアリリースへのアップグレードを行う前に、8ページの「システム識別時の DNS 構成」を参照してください。

注 - このリリースで利用できる新しいプラットフォームとオプションのリストについては、ハードウェアのマニュアルを参照してください。

Solaris 2.5.1 または 2.6 オペレーティング環境からのアップグレード

Solaris 2.5.1 または 2.6 オペレーティング環境を使用している場合は、Solaris 7 - 11/99 ソフトウェアリリースへのアップグレードの手順について、『Solaris 7 インストールライブラリ (SPARC 版)』または『Solaris 7 インストールライブラリ (Intel 版)』の「システムのアップグレード」を参照してください。

注 - アップグレード中に、いくつかのパッケージ (SUNWolrte、SUNWoldcv、SUNWoldte、SUNWolaud を含む) に関するメッセージが表示されますが、すでにインストールされているものと同じアーキテクチャおよびバージョンのパッケージをインストールすることを示すメッセージなので、問題はありません。

```
Doing pkgadd of SUNWolrte to /  
  
This appears to be an attempt to install the same architecture and  
version of a package which is already installed. This installation  
will attempt to overwrite this package.  
  
Installation of <SUNWolrte> was successful...
```

注 - Solstice AdminSuite 2.3 ソフトウェアを使用して、サーバーに OS サービスを追加する場合は、Solstice AdminSuite 2.3 のパッチ ID 104468-11 (SPARC) / 104469-11 (Intel) あるいはこのリビジョン以降のパッチをインストールする必要があります。詳細は、21ページの「インストールやアップグレードに必要な AdminSuite パッチ」を参照してください。

Solaris 7、Solaris 7 - 3/99、5/99、または 8/99 オペレーティング環境からのアップグレード (パッチを適用していない場合)

Solaris 7、Solaris 7 - 3/99、5/99、または 8/99 オペレーティング環境を使用している、システムに個別のパッチをインストールしていない場合は、『Solaris 7 インストールライブラリ (SPARC 版)』または『Solaris 7 インストールライブラリ (Intel 版)』の「システムのアップグレード」を参照して、Solaris 7 - 11/99 オペレーティング環境へのアップグレードを行ってください。

注 - アップグレード中に、いくつかのパッケージ

(SUNWolrte、SUNWoldcv、SUNWoldte、SUNWolaud を含む) に関するメッセージが表示されますが、すでにインストールされているものと同じアーキテクチャおよびバージョンのパッケージをインストールすることを示すメッセージなので、問題はありません。

```
Doing pkgadd of SUNWolrte to /  
  
This appears to be an attempt to install the same architecture and  
version of a package which is already installed. This installation  
will attempt to overwrite this package.  
  
Installation of <SUNWolrte> was successful...
```

注 - Solstice AdminSuite 2.3 ソフトウェアを使用して、サーバーに OS サービスを追加する場合は、Solstice AdminSuite 2.3 のパッチ ID 104468-11 (SPARC) / 104469-11 (Intel) あるいはこのリビジョン以降のパッチをインストールする必要があります。詳細は、21ページの「インストールやアップグレードに必要な AdminSuite パッチ」を参照してください。

Solaris 7、Solaris 7 - 3/99、5/99、または 8/99 オペレーティング環境からのアップグレード (パッチを適用している場合)

Solaris 7、Solaris 7 - 3/99、5/99、または 8/99 オペレーティング環境を使用していて、システムに個別のパッチがインストールされている場合、Solaris 7 - 11/99 オペレーティング環境にアップグレードすると、次のようになります。

- Solaris 7 - 11/99 オペレーティング環境の一部として提供されているすべてのパッチがシステムに再びインストールされます。これらのパッチはバックアウトできません。
- 以前システムにインストールしたパッチのうち、Solaris 7 - 11/99 オペレーティング環境に含まれていないパッチは削除されます。

削除されるパッチを確認するには、次に説明するパッチアナライザを使用します。

Solaris 7、Solaris 7 - 3/99、5/99、または 8/99 システムにパッチをインストールしていない場合は、15ページの「Solaris 7、Solaris 7 - 3/99、5/99、または 8/99 オペレーティング環境からのアップグレード (パッチを適用していない場合)」を参照してください。

パッチの解析

パッチアナライザはシステムを解析して、Solaris 7 - 11/99 オペレーティング環境にアップグレードする場合に、どのパッチが削除されるかを決定します。パッチアナライザは手動で実行するスクリプトとして、または対話式インストールの一部として利用できます。

- 対話式インストールを使用してアップグレードする場合、パッチを解析するには解析オプションを選択してください。
- 対話式インストールを使用せずにアップグレードする場合、パッチを解析するには、次に説明する手順で `analyze_patches` スクリプトを実行してください。

解析を実行した後、パッチの解析結果の詳細については、18ページの「パッチアナライザの解析結果を確認するには」を参照してください。

analyze_patches スクリプトを実行するには

注 - analyze_patches スクリプトを実行するには、このスクリプトがインストールされているシステムと NFS™ マウントを介して、あるいはローカルにマウントされた媒体を介して、Solaris 7 - 11/99 CD (または、ネットワーク上にあるイメージ) にアクセスできなければなりません。

1. OS イメージ上の Misc ディレクトリに移動します。

- SPARC システムのローカルにマウントされた媒体上にイメージがある場合、次のように入力します。

```
# cd /cdrom/ja_sol_7_1199_sparc/s0/Solaris_2.7/Misc
```

- x86 ベースのシステムのローカルにマウントされた媒体上にイメージがある場合、次のように入力します。

```
# cd /cdrom/ja_sol_7_1199_x86/s2/Solaris_2.7/Misc
```

- NFS マウントを介してイメージを利用できる場合は、次のように入力します。

```
# cd /NFS_mount_directory/Solaris_2.7/Misc
```

2. analyze_patches スクリプトを実行します。

```
# ./analyze_patches
```

表 3-1 に、コマンド行で使用できるオプションのリストを示します。

表 3-1 analyze_patches のコマンド行オプション

オプション	説明
-R <i>rootdir</i>	<i>rootdir</i> はインストールされているシステムのルートです。デフォルトは / です。
-N <i>netdir</i>	<i>netdir</i> は、これからインストールしようとしている OS イメージのルートへのパスです。デフォルトは /cdrom/cdrom0 です。このパスは Solaris 2.7 ディレクトリを含むディレクトリを指していなければなりません。NFS マウントから <i>patch_analyzer</i> を実行する場合は、このオプションを使用しなければなりません。
-D <i>basedir</i>	OS イメージ上の Misc 以外のディレクトリからスクリプトを起動した場合、パッチアナライザはパッチを解析するために使用するデータベースを見つけることができません。このため、-D オプションを使用して、データベースへのパスを指定します。このデータベース (OS イメージの /Solaris 2.7/Misc/database に格納されている) がなければ、スクリプトは適切に動作しません。

パッチアナライザの解析結果を確認するには

解析を実行した後、解析結果を確認するには、次の手順に従います。

1. analyze_patches スクリプトの出力を調べます。

- パッチアナライザは、他のパッチによって削除、ダウングレード、アップグレードされるパッチのリストを示します。アップグレードされる場合、古いパッチは削除され、新しいパッチの内容が適用されます。たとえば、次のようなメッセージが表示されます。

```
Patch 105644-03 will be removed.
Patch 105925 will be downgraded from -02 to -01.
Patch 105776-01 will be accumulated/obsoleted by patch 105181-05.
```

- パッチ解析を実行しても何も出力されない場合は、システムにすでにインストールされているパッチに対して何も影響はありません。

2. パッチを置換および削除するかどうかを決定します。

- Solaris 7 - 11/99 オペレーティング環境によりパッチを置換および削除してもよい場合は、『Solaris 7 インストールライブラリ (SPARC 版)』または『Solaris 7 インストールライブラリ (Intel 版)』の「システムのアップグレード」を参照して、Solaris 7 - 11/99 オペレーティング環境へのアップグレードを行ってください。
- Solaris 7 - 11/99 オペレーティング環境によるパッチの置換および削除をしたくない場合は、Solaris 7 - 11/99 CD を使用するアップグレードは実行しないでください。その場合、Solaris 7 Maintenance Update™ 4 (MU4) CD および『Solaris 7 Maintenance Update 4 ご使用にあたって』を使用して、現在の Solaris 7 システムにパッチをインストールしてください。

注 - アップグレード中に、いくつかのパッケージ

(SUNWolrte、SUNWoldcv、SUNWoldte、SUNWolaud を含む) に関するメッセージが表示されますが、すでにインストールされているものと同じアーキテクチャおよびバージョンのパッケージをインストールすることを示すメッセージなので、問題はありません。

```
Doing pkgadd of SUNWolrte to /  
  
This appears to be an attempt to install the same architecture and  
version of a package which is already installed. This installation  
will attempt to overwrite this package.  
  
Installation of <SUNWolrte> was successful...
```

注 - Solstice AdminSuite 2.3 ソフトウェアを使用して、サーバーに OS サービスを追加する場合は、Solstice AdminSuite 2.3 のパッチ ID 104468-11 (SPARC) / 104469-11 (Intel) あるいはこのリビジョン以降のパッチをインストールする必要があります。詳細は、21ページの「インストールやアップグレードに必要な AdminSuite パッチ」を参照してください。

パッチの追加

この章では、サーバーに OS サービスを追加する場合に必要なパッチのインストール方法と、サーバーのアップグレード後にクライアントをアップグレードする方法について説明します。

インストールやアップグレードに必要な AdminSuite パッチ

この節は、Solaris 7 Documentation CD の『Solaris のシステム管理 (第 1 巻)』の「サーバーとクライアントサポートの追加」に対する補足説明です。

Solstice AdminSuite 2.3 ソフトウェアが動作するサーバーからディスクレスクライアントや Solstice AutoClient™ システムをインストール場合は、Solstice AdminSuite 2.3 のパッチ ID 104468-11 (SPARC) / 104469-11 (Intel) あるいはこのリビジョン以降のパッチをインストールする必要があります。パッチとインストールの手順は、<http://access1.sun.com/> からダウンロードすることができます。

access1.sun.com からパッチを入手できない場合は、ご購入先にお問い合わせください。

すでにパッチが適用されている Solaris リリースで Solstice AdminSuite ソフトウェアを使用していて、すべてのパッチを削除することが推奨されていないか削除できない場合には、OS サービスを追加するのに次のファイルが必要です。

```
/var/sadm/patch/.mu_applied
```

次の Maintenance Update のリリースでは、このファイルは自動的に作成されます。

- Solaris 2.5.1: MU3、MU4、MU5
- Solaris 2.6: MU1、MU2
- Solaris 7: MU1、MU2、MU3、MU4



注意 - この対処方法では、Solstice AdminSuite ソフトウェアはシステム内のすべてのパッチを追跡することはできません。システムにパッチを追加したりまたはシステムからパッチを削除したりするときは、`admclientpatch` を使用してください。

サーバーアップグレード後のクライアントのアップグレード

この節は、『Solaris 7 インストールライブラリ (SPARC 版)』または『Solaris 7 インストールライブラリ (Intel 版)』の「システムのアップグレード」に対する補足説明です。

サーバーをアップグレードした後、このサーバーに接続されているクライアントに、Solaris 7-11/99 CD の Patches ディレクトリにあるパッチを適用する必要があります。

クライアントにパッチを追加する方法の詳細は、`patchadd(1M)` のマニュアルページを参照してください。サーバーのアップグレードの詳細は、`server_upgrade(1M)` のマニュアルページを参照してください。

ソフトウェアの管理とアンインストール

この章では、Solaris Product Registry ツールについて説明します。

注 - 最新のマニュアルページを参照するには、man コマンドを使用してください。Solaris 7 - 11/99 のマニュアルページには、「*Solaris 7 Reference Manual Collection*」には記載されていない新しい情報が提供されています。

Solaris Product Registry の使用

Solaris Product Registry ツールは、Solaris 7 - 3/99 ソフトウェアリリースで追加されたものです。

この節は、『*Solaris 7 インストールライブラリ (Intel 版)*』と『*Solaris 7 インストールライブラリ (SPARC 版)*』の内容に対する追加情報です。

Solaris Product Registry は、インストールされているソフトウェアをユーザーが管理するためのツールです。Solaris をインストールすると、Solaris Product Registry は、Solaris Web Start 2.0 や Solaris パッケージ管理コマンド (pkgadd など) でインストールしたすべてのソフトウェアの一覧を提供します。Solaris Product Registry を起動するには、`/usr/bin/prodreg` をコマンド行に入力します。

Solaris Product Registry を使用すると、次のような作業を行うことができます。

- インストールおよび登録されているソフトウェアとソフトウェア属性の一覧の表示
- ソフトウェアのアンインストール

■ インストーラの選択と起動

Solaris Web Start によるインストールの詳細については、『Solaris 7 インストールライブラリ (Intel 版)』または『Solaris 7 インストールライブラリ (SPARC 版)』を参照してください。

Solaris Product Registry とは

Solaris Product Registry は、Solaris Web Start 2.0 や Solaris パッケージ管理コマンド (pkgadd など) でインストールしたすべてのソフトウェアの一覧を表示します。

図 5-1 に示すメインウィンドウは、3つの情報領域から構成されます。インストールされたソフトウェアが表示される製品表示領域、選択されたソフトウェアの標準属性が表示される属性表示領域、およびカスタマイズされた属性と登録されているソフトウェアの内部属性が表示される詳細情報領域です。

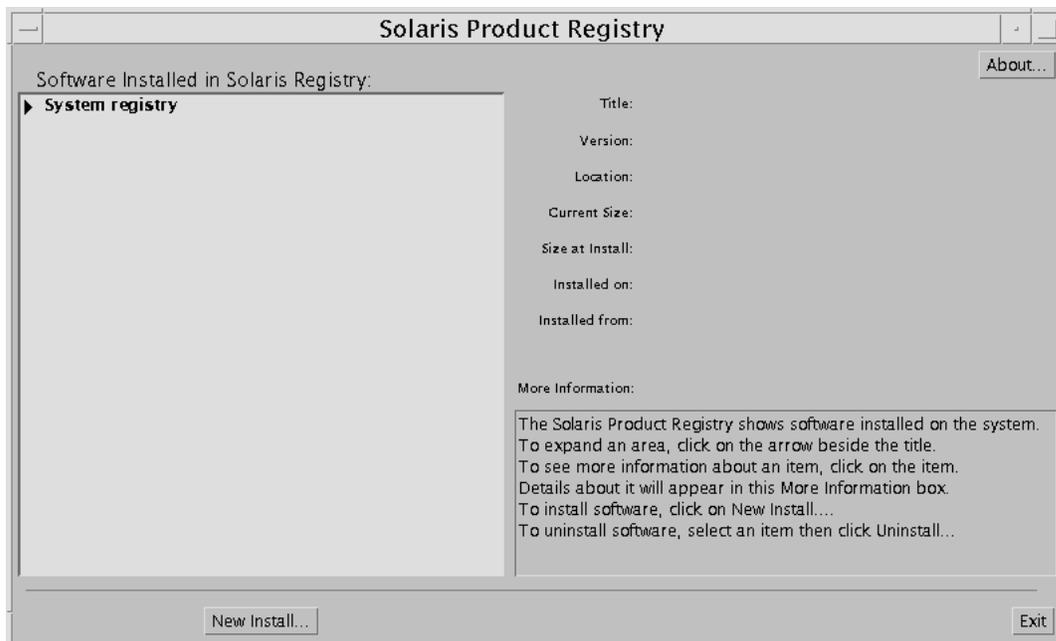


図 5-1 Solaris Product Registry の初期画面

Solaris Product Registry で項目を表示するには、「システムレジストリ (System registry)」の左側にある三角形をクリックします。右を向いていた三角形が下を向きます。「システムレジストリ (System registry)」内で、右を向いている三角形を持つ項目はこの方法で展開できます。下を向いている三角形を持つ項目は、その三

角形をクリックすると短縮できます。左側に四角形を持つ項目は、展開したり、短縮したりすることはできません。

「インストールされているソフトウェア (Software Installed in Solaris Registry)」(次の図 5-2 を参照) の「Solaris 7 v2.7 (SunOS 5.7) [0]」には常に 2 つの項目があります。Solaris のインストール時に選択した構成クラスタと「追加のシステムソフトウェア (additional system software)」です。構成クラスタは「Core System Support」、「End User System Support」、「Developer System Support」、「Entire Distribution」、「Entire Distribution plus OEM support」(SPARC システムのみ) のいずれかです。「追加のシステムソフトウェア (additional system software)」項目には、選択した構成クラスタには含まれない Solaris 製品が表示されます。さらに、「その他のソフトウェア (unclassified software)」には、pkgadd コマンドでインストールした、Solaris 製品や構成クラスタには含まれないパッケージが表示されます。

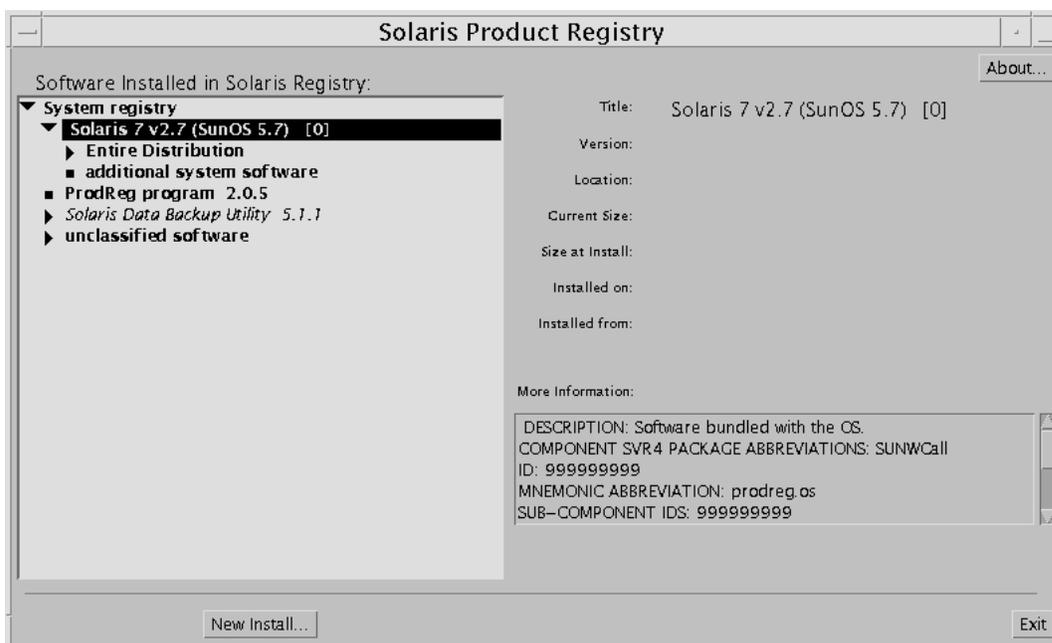


図 5-2 「システムレジストリ (System registry)」が展開された画面

Solaris Product Registry の属性セクション

製品の属性は、Solaris Product Registry ウィンドウの「詳細情報: (More Information:)」ボックスの上に表示されます。Web Start でインストールした製品の

場合、少なくとも「タイトル (Title)」、「バージョン (Version)」、「インストール位置 (Location)」、および「インストール日時 (Installed on)」の属性が表示されます。製品またはクラスタの下で展開されているリスト内の項目の場合、その製品のバージョンが表示されます。項目の属性値を表示するには、その項目をクリックします。

削除した製品

すでに `pkgrm` コマンドで削除したソフトウェアに対応する項目が、「Solaris Product Registry」ウィンドウに表示されることがあります。この場合、「1つまたは複数のコンポーネント中のファイルがありません。」というメッセージが「インストール媒体 (Installed from:)」の属性の下に表示されます (図 5-3 を参照)。 `pkgadd` コマンドでソフトウェアを再インストールすることも、Solaris Product Registry で削除することもできます。

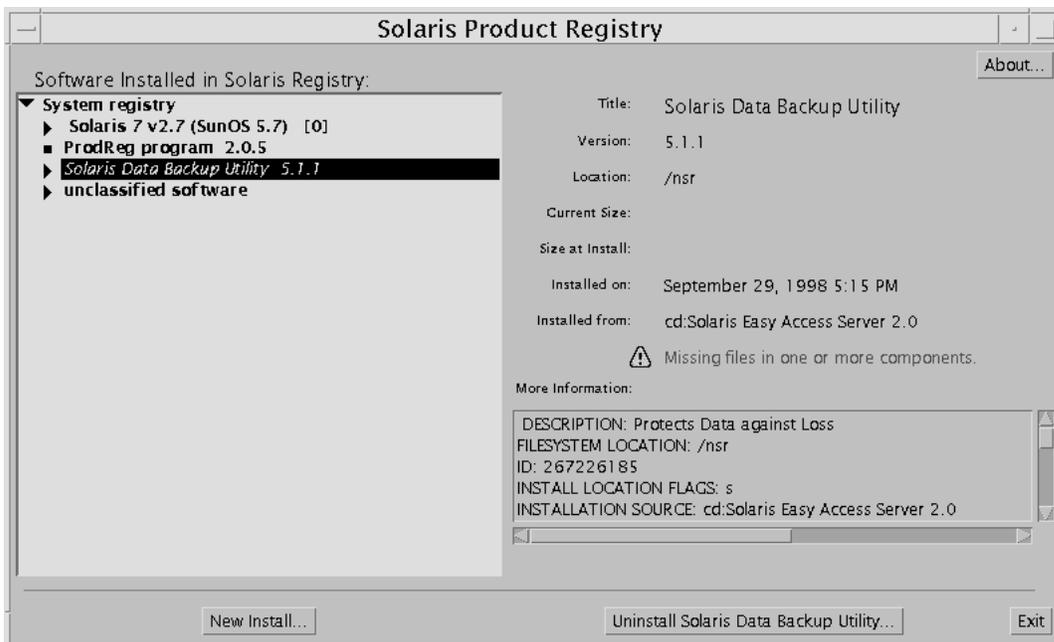


図 5-3 Solaris Product Registry でファイルがないことを示すメッセージ

登録されているソフトウェアの表示、アンインストール、およびインストーラの起動

この節では、次の作業を行う方法を説明します。

- インストールおよび登録されているソフトウェアとソフトウェア属性の一覧の表示
- ソフトウェアのアンインストール
- インストーラを選択と起動

▼ 登録されているソフトウェアを表示するには

Solaris Product Registry を使用すると、インストールおよび登録されているソフトウェアの一覧を表示できます。また、一覧に表示されているソフトウェア項目の属性も表示できます。

1. まだ **Solaris Product Registry** が動作していない場合、次のコマンドを入力して起動します。

```
/usr/bin/prodreg
```

Solaris Product Registry メインウィンドウが表示され、「システムレジストリ (System registry)」の項目が表示されます。この項目の左にある三角形をクリックすると、インストールおよび登録されているソフトウェアの一覧が表示されます。

2. ソフトウェア属性を参照したい場合は、参照したいソフトウェアの名前をクリックします。

Solaris Product Registry は、選択したソフトウェアの属性情報を表示します。

▼ ソフトウェアをアンインストールするには

1. まだ **Solaris Product Registry** が動作していない場合、次のコマンドを入力して起動します。

```
/usr/bin/prodreg
```

Solaris Product Registry メインウィンドウが表示され、「システムレジストリ (System registry)」の項目が表示されます。この項目の左にある三角形をクリックすると、インストールおよび登録されているソフトウェアの一覧が表示されます。

通常は、`prodreg` とコマンド行に入力するだけで Solaris Product Registry を起動できます。

2. アンインストールしたいソフトウェアの名前をクリックします。
3. ソフトウェア属性を読んで、このソフトウェアがアンインストールしたいソフトウェアであるかどうかを確認します。
4. **Solaris Product Registry** メインウィンドウの下にある「アンインストール (Uninstall)」ボタンをクリックします。

▼ Solaris Product Registry からインストーラを起動するには

1. まだ **Solaris Product Registry** が動作していない場合、次のコマンドを入力して起動します。

```
/usr/bin/prodreg
```

通常は、`prodreg` とコマンド行に入力するだけで Solaris Product Registry を起動できます。

2. **Solaris Product Registry** メインウィンドウの下にある「新規インストール (New Install)」ボタンをクリックします。
Solaris Product Registry は「インストーラを選択」ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスでは、デフォルトで `/cdrom` ディレクトリが指定されています。
3. 「インストーラを選択」ダイアログボックスを使用して、起動したいインストーラを検索します。
4. 起動したいインストーラを見つけたら、「ファイル」リスト内でそのインストーラの名前をクリックします。

5. 「了解」をクリックして、インストーラを起動します。